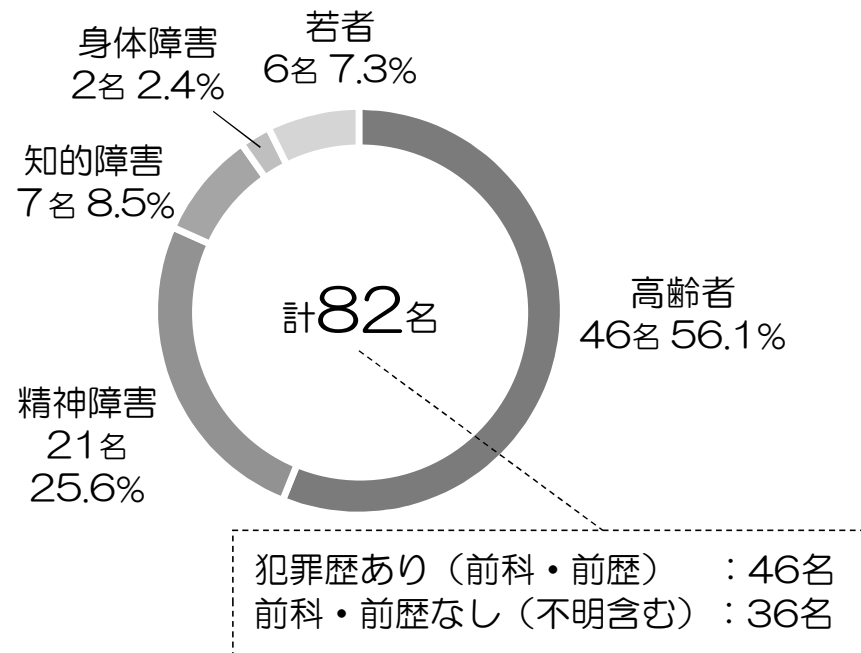
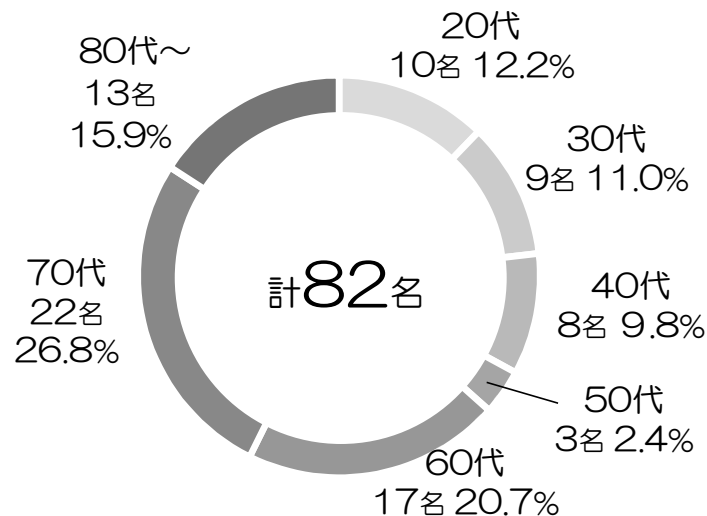


1 対象者の属性

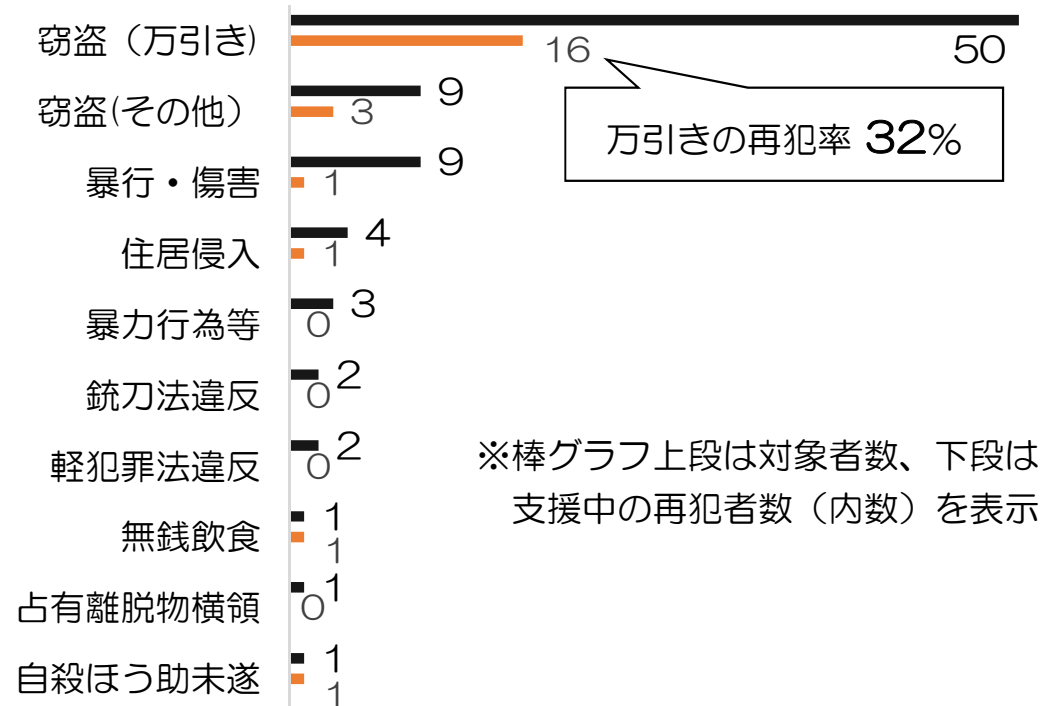
(1) 対象者区分別



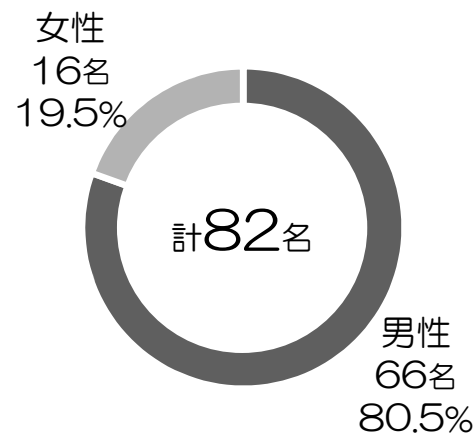
(3) 対象者年代別



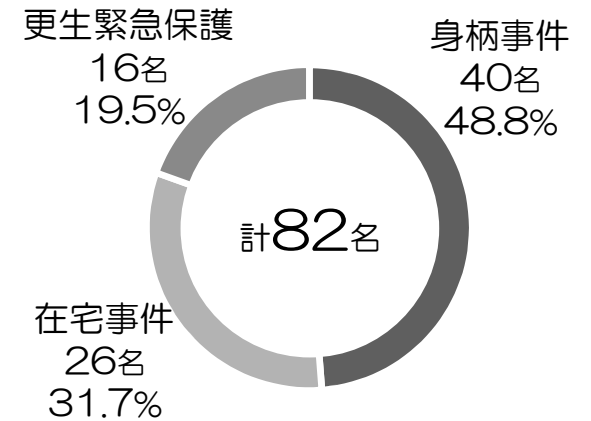
(2) 起訴猶予となった罪名一覧



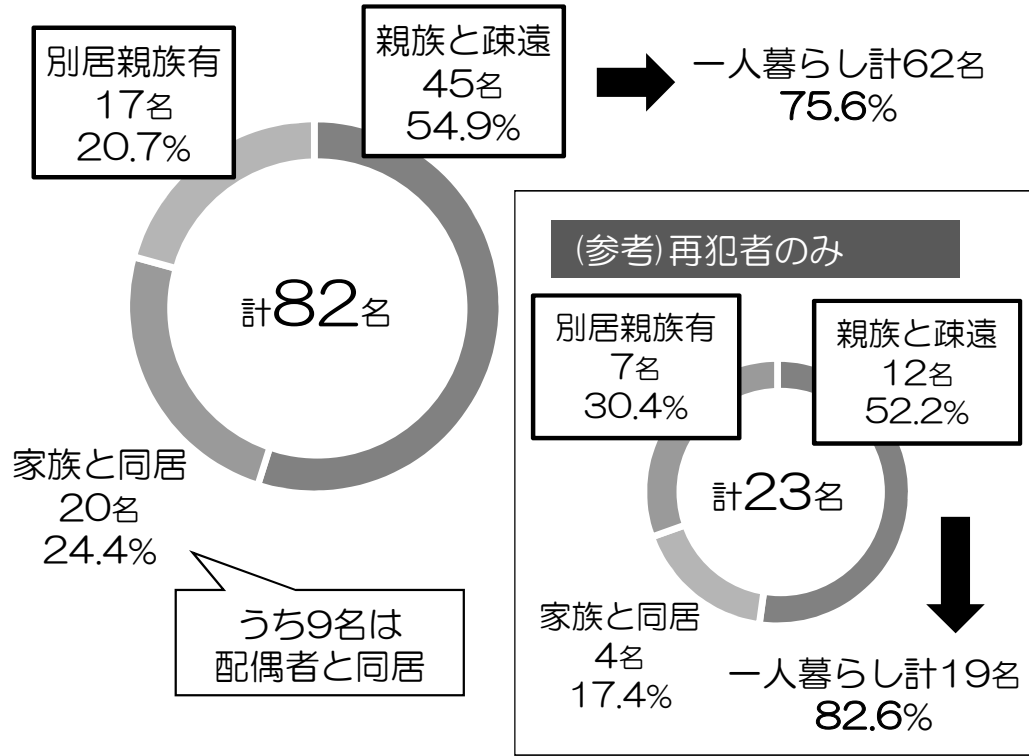
(4) 対象者性別



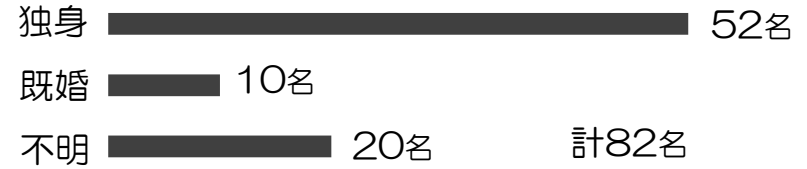
(5) 依頼種別



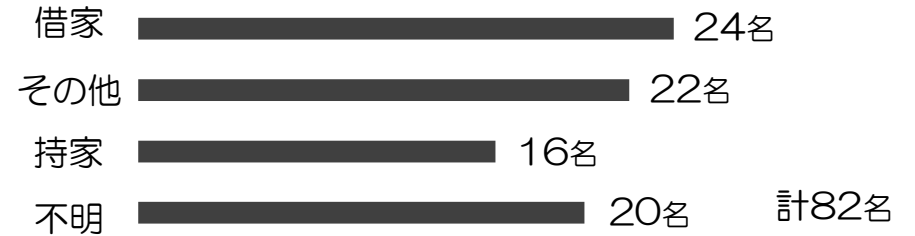
(6) 家族の状況



(7) 婚姻関係



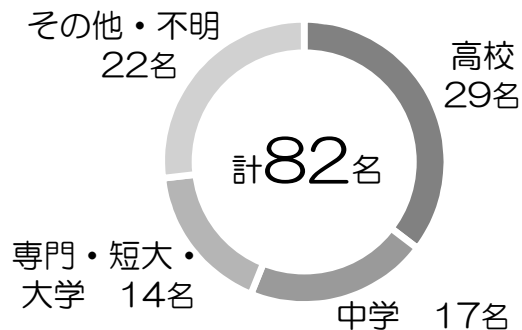
(8) 住居



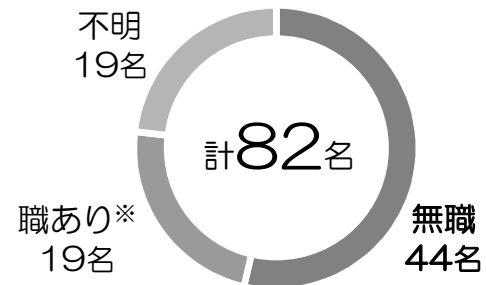
その他内訳：グループホーム、自立準備ホーム、市営・県営住宅、サービス付高齢者向住宅、保護施設、ホームレス、住所不定 等

(9) 最終学歴・職業

<最終学歴（中退含む）>

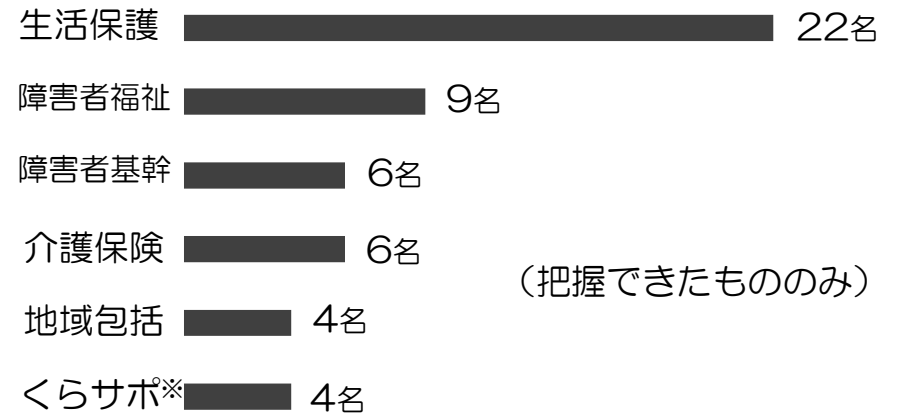


<現在の職業>



※主婦(夫)・福祉作業所等を含む

(10) 支援開始時に利用中のサービス

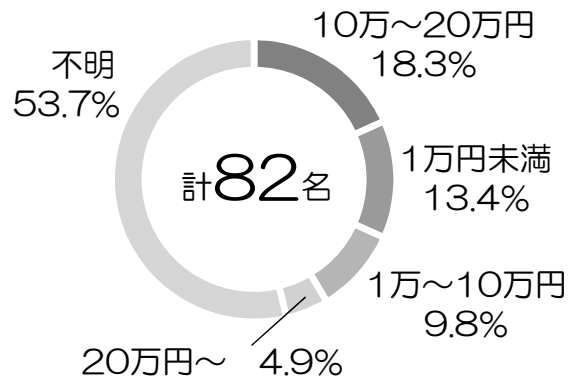


※仕事・暮らし自立サポートセンター

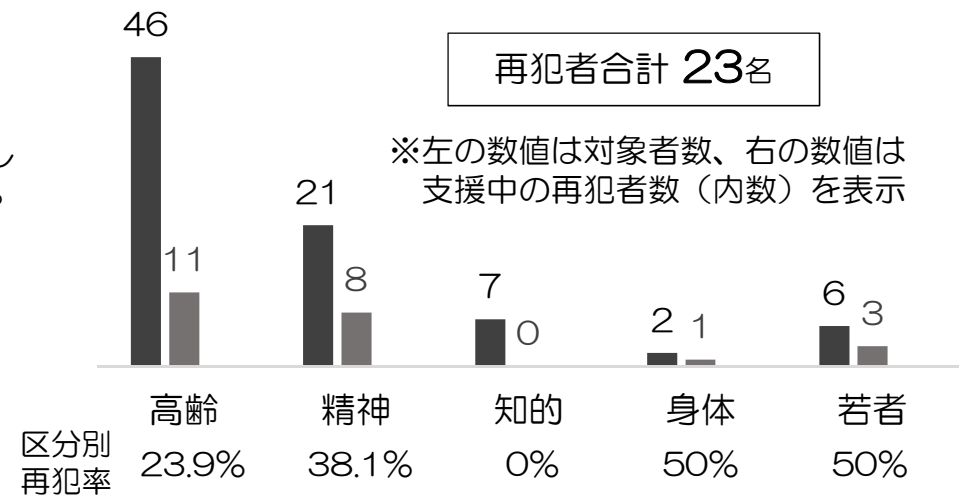
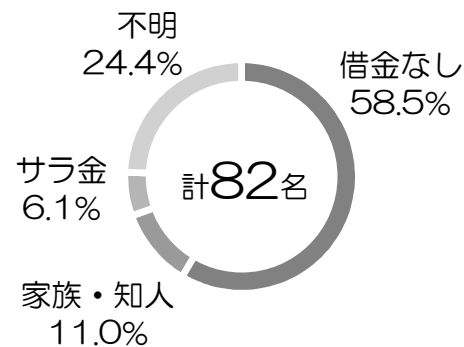
(11) 収入と金銭の状況

2 再犯の状況

<世帯月収>



<借入金>



<支援開始時の所持金>

所持金を把握できた44名のうち、所持金5千円未満が最も多く14名、続いて5千～3万円が12名、3万円以上が9名であった。所持金が0円という人も9名いた。

再犯率（全体）
28.0%

身柄事件 : 42.5%
在宅事件 : 19.2%
更生緊急保護 : 6.3%

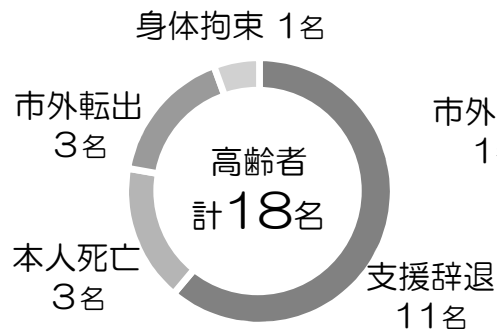
3 支援中止の状況

支援中止 合計 27名 中止率 32.9%

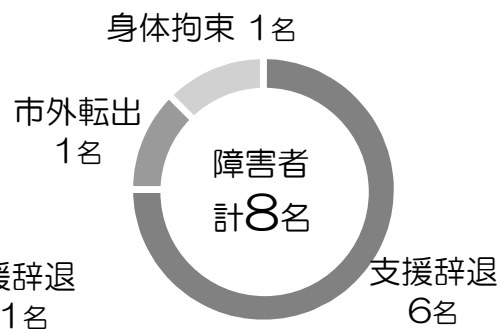
27名中17名が支援辞退
(全対象者の5人に1人が辞退)

<支援中止の理由>

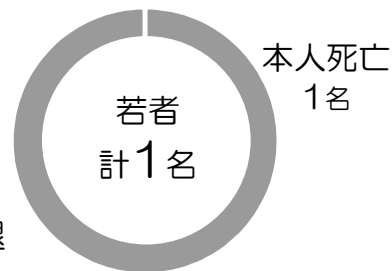
(1) 高齢者区分



(2) 障害者区分



(3) 若者区分



(参考) 支援中止までの期間

0～1日	7名
2日～1ヶ月	4名
1ヶ月超～3ヶ月	11名
3ヶ月超～6ヶ月	5名
合計	27名

4 支援の内容

(1) フォローアップ実施回数

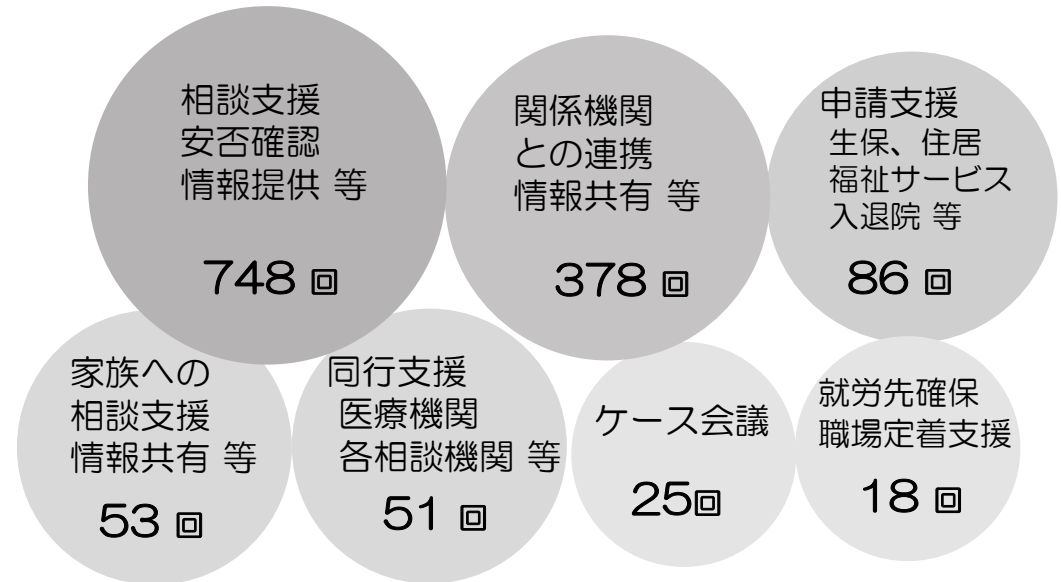
全対象者合計
計1,359回

対象者一人あたり平均回数
(支援期間通算)
16.6回

支援中止者のみでも平均 9.2回

フォローアップは原則1人1日に1回の内容をベースとしているが、午前・午後など異なる時間帯に支援している場合は1日に複数回計上している場合もある。
1回の支援で様々な内容を含む場合は、主な目的で計上。
訪問・電話・メール等手段を問わず、本人と接触ができなかった場合でも生活状況の確認として回数に計上。

(2) 主な支援内容



(3) 主な関係機関 ※コーディネーターが相談のみした事案や、支援開始前から継続して支援している事案を含む（件数順）

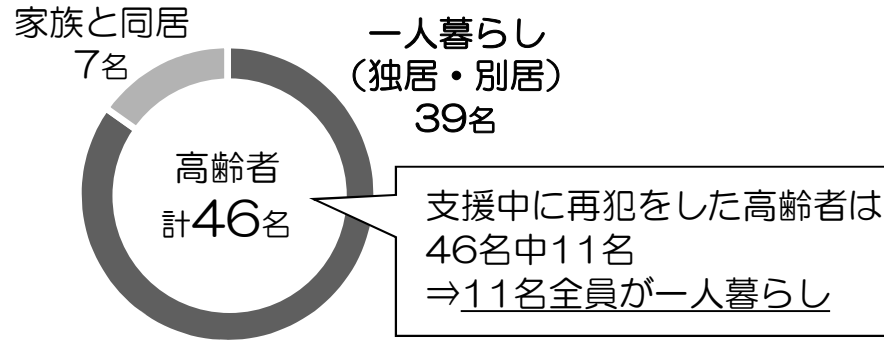
	区分	件数
1	区・支所 生活保護担当	31
2	医療機関（精神）	26
3	医療機関（精神以外）	20
4	日中事業所	16
5	更生保護施設	15
5	いきいき(地域包括)支援C	15
5	障害者基幹相談支援C	15
8	グループホーム	11

8	計画相談事業所	11
10	区保健予防課（精神保健）	6
10	弁護士相談	6
12	ケアプランセンター	5
13	権利擁護センター	3
13	仕事・暮らし自立SC	3
13	市住まいの相談窓口	3
13	年金事務所	3
17	市障害企画課	2

17	成年後見センター	2
19	精神保健福祉センター	1
19	子ども・若者総合相談C	1
19	再非行防止サポートC	1
19	あしたば（家計相談）	1
19	認知症コールC	1
24	その他住居関係	8
25	その他就労関係	7

5 実施結果からみる課題の考察

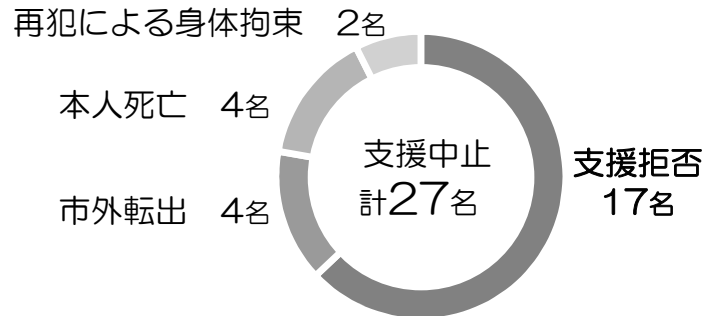
(1) 独居高齢者など孤立しやすい人への支援



一人暮らしで親族・知人との交流が極端に少ないなど、孤立傾向のある人への重点的な支援が求められる

※再犯のきっかけの見極め、親族等への働きかけなど。ただし監視ではなく、本人の希望する生き方について考える中で目標や生きがいを感じられるようにするための配慮も必要

(3) 支援中止を多発させないための対策



(主な課題)

- 本人や家族への同意のとり方
- 広域での対応
- 対象者選定方法 (健康状態等のアセスメント)
- 柔軟な支援期間の設定 等

(2) 再犯を繰り返す人への中長期的な支援

- 82名中23名 (28%) が支援期間中に再犯
- 期間中に複数回の再犯があった人も複数人あり

伴走支援を行ったからといって直ちに再犯が抑制されるわけではない

⇒再犯による身体拘束 (労役等) でモデル事業の支援期間を超過することから支援終了せざるを得なかったケースがあった

⇒中長期的に支援ができる枠組みの構築が必要

(4) きめ細かい支援ができるフォローアップ体制構築

例

A 認知症の症状あり、再犯のリスクあるが本人に問題意識がなく治療ができていない

B 精神不安定になると再犯のリスクが高い。悩みを相談できるような信頼関係の構築が必要

再犯リスクが高いにも関わらず支援を拒否する人、介護や障害サービスにつながらず制度の狭間にある人など、個々の状況に応じてきめ細かいフォローアップが必要
⇒重点的な支援ができる体制構築が重要